
ピーチジュース

暁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ピーチジュース

【Nコード】

N3939BA

【作者名】

暁

【あらすじ】

自販機シリーズ最新作です。

(前書き)

TT様のリクエストに答えてみました。こんなのでどうでしょう？

カフェの店長さんは、『クロネコ(略)』の人です。コラボしてみました。

書き忘れましたが、ピーチジュースはホットです。

夢の中で、私は泣いていた。理由は…覚えていない。

「また泣いているのか。お前は泣き虫だな。…ほら、これでも飲め」

「……ありがとう」

近所のカフェの店長さんがくれたピーチジュース、美味しかった。

私はそれから、ほぼ毎日カフェに行った。

私の目的はピーチジュースと……。

「……ここ、どこ？」

夢から目を覚ますと、私はベンチの上で眠っていた。

「……学校？」

徐々に思い出してきた。

授業が終わり、あのバカの人と会った。

「……また雪かきですか？」

「いや、雪だるま作ってる！」

目をキラキラ輝かせながら言うその姿は、アホな小学生そのものだ。つた。

「時間あるなら一緒に作らない？」

「時間がありますが、いいです。そのベンチで座って本でも読んでます」

そして、学校の上のベンチで本を読んで、いつの間にか眠ったんだ。

「…あっ、私の上にかけてあるこの上着……」

「ん？起きた？冬に外に近いベンチで寝たら死ぬよ」

「この上着…」

「それ、俺の。……もしかして臭かった？」

「…大丈夫です」

「はぁ、よかった」

バカの人には安心してみたいだ。

「…雪だるま、可愛いですね」

「ありがとう！あのドS教師から奪ってきた三角定規の角がポイントなんだ！」

「見たことある角だと思ったら、あの人の三角定規ですか。怒られますよ」

「あっはっは。知らない！」

この人…本当にバカ。

「おいそこの2人」

「げっ、ドS教師」

「噂をすれば何とやらですね」

「もう生徒は帰る時間だ。帰らなければその雪だるまの顔をつぶす」

「なんで顔限定!？」

この人といくと、トラブルばかりですね。

「先生、このバカの人が先生の三角定規を雪だるまの角にしています」

「何で言うの！」

「……本当だな」

「俺は謝らないから！」

「いや、別にいい。その定規にはスピアがあるからな」

「スピアあるんですか」

「よっしゃ！怒られない！」

「しかし明日は2人とも怒る」

「どゆこと!？」

「私ですか…」

なんかこの人といると、怒られてばかり…。

下校する時、お詫びにとジュースを奢ってくれた。

「……ピーチジュース」

「嫌いだった？」

「ピーチジュースは……初恋の味なんですよね」

「えっ？」

そう、私があのカフェに通う理由はもう1つ。カフェの店長の八重さんだ。

幼い私は、八重さんに恋をしていた。

だから……ピーチジュースは初恋の味。

（後書き）

シリーズ化を記念して？キャラの名前を募集します。

バカの人、優秀敬語女子、ドS教師の3人ですね。

いい名前は、使わさせていただきます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3939ba/>

ピーチジュース

2012年1月10日09時56分発行